

The Japan Association for the Promotion of Arts (JAPA)

公益財団法人美術文化振興協会 平成 28 年度 事業報告

平成 28 年度の事業報告については下記の通りです。決算は別紙をご参照ください。

記

I : 「美術文化に関する国際交流」事業

【1】 《ジャパニーズ・アート・プログラム(Japanese Art Program)》

ライデン大学との共同事業である「ジャパニーズ・アート・プログラム」に関し、平成 17 年より派遣事業を実施してきました。平成 28 年度は第 10 回目の講座「日本画」を実施し、講師は重政啓治氏（武蔵野美術大学教授／日本画家）にお務め頂きました。

重政教授の製本による「ジャパニーズ アート プログラム 2016 の実施報告書」をお納め頂いております。

<開催概要>

ジャパニーズ・アート・プログラム「日本画」

共催：公益財団法人美術文化振興協会／ライデン大学

【1】 ジャパニーズ・アート・プログラム

派遣期間：平成 28 年（2016 年）10 月 30 日から 11 月 20 日まで

派遣先：ライデン大学／オランダ

ライデン大学のご担当教授：イフォ・スミッツ教授

講師：重政啓治氏（武蔵野美術大学教授／日本画家）

内容：「日本画を描く」ライデン大学学生対象授業（5 回開講）

参加学生：13 名

講座の概要：

1. 11 月 3 日 15:00～17:00 インTRODクシヨN 「日本画について」
2. 11 月 8 日 15:00～17:30 「日本画の筆を使う」
3. 11 月 10 日 15:00～17:30 「日本画の絵具：描く」
4. 11 月 15 日 15:00～17:30 「日本画制作 1」
5. 11 月 17 日 15:00～16:30 「日本画制作 2」



[2] 日本アセアン文化交流事業の発足準備

当財団の発足は、1997年夏に福田赳夫総理大臣がアセアン諸国を歴訪し、最終訪問地のマニラで「心と心の触れあい」に根ざす東南アジア諸国の真の友人としての関係を打ち出した歴史的なスピーチ「福田ドクトリン」に共鳴したことに端を発しています。当財団は、アセアン諸国との人間、文化、芸術の交流を通じた関係強化を目指し発足しました。この経緯を踏まえ、アセアン諸国との文化交流事業の実現に向けて、平成16年にはタイへの調査団が派遣されました。平成26年度から有志によるリトリート会合なども含め意見交換の機会を設け、その可能性について議論を進めました。平成27年度には当プロジェクトの推進にあたり、小和田恆名誉会長はじめ近藤誠一会長と連携し、福田康夫元総理大臣やバンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使とのご面会が実現しました。また、東京藝術大学の研究プログラムと連携しタイ訪問が実現し、在タイ日本国大使館佐渡島志郎特命全権大使とのご面会はじめ、Queen Sirikit Institute、国際交流基金バンコク日本文化センター、シラパコン大学の訪問などを行いました。平成28年度は、タイとの計画を打診していく予定としておりましたが、タイの国王崩御の訃報にふれ、時期を兼ね合わせながらコンタクトを行っていきました。

II : 「美術文化に関する研究会・講演会等の開催」事業

[1] 《ジャパニーズ・アート・セミナー (Japanese Art Seminar)》

ジャパニーズ・アート・プログラムの機会と併せ、学外に公開する「ジャパニーズ・アート・セミナー」『日本画』を、重政啓治氏に講師をお務め頂き実施しました。第5回目となる公開セミナーであり、ライデンにある日本博物館シーボルト・ハウスで開催しました。

<開催概要>

【1】 ジャパニーズ・アート・セミナー「日本画」（一般参加可能な公開セミナー）

共催：公益財団法人美術文化振興協会／ライデン大学

協力：シーボルトハウス

日時：平成28年（2016年）11月6日（火）15時～16時

会場：日本博物館シーボルトハウス（Rapenburg 19, Leiden）

ライデン大学のご担当教授：イフォ・スミッツ教授

講師：重政啓治氏（武蔵野美術大学教授／日本画家）

参加：25名

内容：「日本画制作を見る」

日本画絵具と和紙、および、制作する手順を見ながらの解説が行われました。



Ⅲ：「美術文化に関する展覧会の開催」事業

[1] ジャパニーズ・アート・プログラム 作品展示

「ジャパニーズ・アート・プログラム」第10回『日本画』の授業で重政啓治教授の指導のもとで学生が制作した作品（団扇に日本画）を、ライデン大学地域研究所内の東アジア図書館に展示しました。

期間：平成28年（2016年）12月～平成29年（2017年）2月

場所：ライデン大学地域研究所内 東アジア図書館

[2] 顕彰事業受賞者の展覧会（計画）

「美術文化に関する優れた業績のある者の顕彰」事業と関連し、その受賞者の展覧会開催に関して計画を進め、実施候補の会場との調整などを進行していきました。

Ⅳ：「美術文化に関する優れた業績のある者の顕彰」事業

[1] 新顕彰事業 創設準備

平成26年度より、新たな顕彰事業の創設にあたり、当財団の使命を掘り下げながら、有志によるリトリート会合なども含め多数の会合を持ち、顕彰事業の名称はじめその内容について議論してきました。平成28年度は共催企業等との交渉などにも当たって参りました。内容の充実を図るため、引き続き準備を進めていくこととしています。

以上

<附属明細書の作成について>

上記の事業報告に関して、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定されている附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので附属明細書は作成していません。

平成 29 年 6 月 3 日

公益財団法人 美術文化振興協会